



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース 23号

アサクサノリ生育観察事業

大森ふるさとの浜辺公園
における海苔生育実験

この事業は、地元住民による「アサクサノリ生育実行委員会」が実施しています。今回は、海で育てる冬に向けて、今年の夏から秋に行った準備作業を紹介します。

1、アク抜き作業(8月11日)

竹には油分があり、そのまま竹ヒビとして使うと海苔がつきにくいので竹を束ねて1ヶ月程度、海中に沈め油分を抜きます。この作業を「アク抜き作業」といいます。



作業は潮の時間帯を読みながら迅速かつ的確に行われます。往時を彷彿させる作業の手際の良さに目を見張るものがありました。

2、せっころ落とし(8月11日)



今年4月に使用した竹ヒビを再利用するため付着している「せっころ」(フジツボ類)



を「移植ゴテ」や「せっころ落とし」という専用の道具を使い、みなさんは慣れた手つきで「せっころ」(フジツボ類)を落としていきます。

右上の写真は、元海苔生産者から指導を受ける当館のサポーター「はまどの会」のメンバー。

3、竹ヒビ引き揚げ作業(9月5日)

アク抜き作業を終えるため、竹ヒビの引き揚げ作業をおこないました。

竹ヒビの材料となる竹の枝に付着した通称“ヌタ”と呼ばれるヘドロを海水で洗い落とししている作業の様子です。



4、ヒビごさえ作業(9月5日)

竹ヒビをつくる作業です。竹ヒビの下にアゴと呼ばれる“かえし”を作り、竹ヒビが簡単に海底から抜けなくするための打合せ中の一コマ。

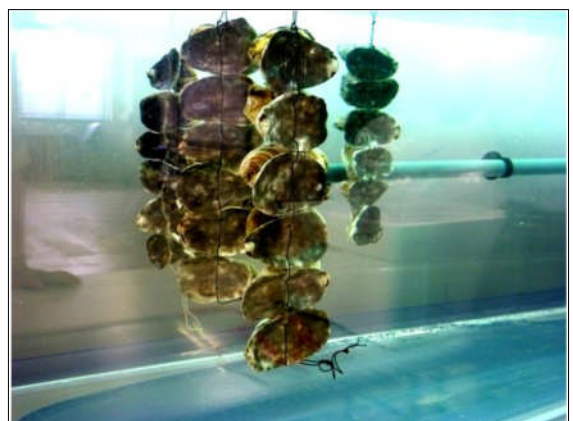


やり方は家々によって千差万別。元海苔生産者の黙々と仕事に向かうその姿は大変感銘を受ける瞬間です。元海苔生産者の姿を見てい

ると微笑ましくも往時のご苦労が偲べれます。

5、ノリの育苗(6月13日~10月中旬ごろまでの予定)

「大森 海苔のふるさと館」ではノリの赤ちゃんを育てています。ノリは冬に収穫し、夏から秋にかけてのこの時期には柔らかい貝殻であるカキ殻の中で生活をします。写真の黒い部分がノリの赤ちゃんです。10月中旬(予定)までこのカキガラの展示を行っていますのでぜひ、ノリの赤ちゃんをご見学ください。(高橋)



どっちに
参加する?

海苔つけ体験

or

一日まるごとのりのり体験

毎年大人気の海苔つけ体験に、今年から新しい催し物が加わりました。その名も「一日まるごとのりのり体験」です。それぞれの違いと楽しみ方をご紹介します。

海苔つけ体験 10時~12時

刻んだ生海苔を四角い枠に流し込み、乾海苔を作る体験です。地元の元海苔生産者が、昔の海苔づくりのお話をしながら、手ほどきしてくれます。

乾し上がった海苔は、翌日以降取りに来ていただくか、郵送でお届けします。

半日、手軽に体験したい方にお勧めです。

▼スケジュール▼

日時	申込日
11月27日 (日)	11月11日 (金)
12月11日 (日)	
1月22日 (日)	1月11日 (水)
2月12日 (日)	
3月4日 (日)	2月21日 (火)

一日まるごとのりのり体験 10時~15時

午前中は、海苔つけ体験を行います。

午後は、海苔網や海苔簀を作る体験、クイズ、海苔生産者のお話、海苔づくりのスライドや映像など、その回に応じて異なる内容を予定しています。

最後は、乾し上がった海苔を自分ではがして持って帰れます(天候により乾かない場合もあります)。一日中、海苔のことを楽しみたい方にお勧めです。

▼スケジュール▼

日時	申込日
12月23日 (祝・金)	12月11日 (日)
1月8日 (日)	
2月26日 (日)	2月11日 (土)
3月11日 (日)	

思い出の旧平和島温泉

平和島は戦前に埋め立てられた小島でした。昭和29年に競艇場、昭和32年に平和島温泉がオープンするなど平和島はレジャーランドとして開発され、東京近郊から多くの人々が娯楽に訪れるようになりました。



その一人である「はまどの会」の渡辺豊治氏から、昭和30年代前半の平和島温泉の絵葉書を寄贈いただきました。当時は品川区在住で、親せきが集まる機会があると平和島温泉へ行き、皆で宴会をした思い出の場所だそうです。「島に渡る赤い橋が印象的でね。当時は海苔もまだ盛んでした」と、子どもの頃を懐かしそうに語ってくれました。

昭和30年代は生活水準が回復し、娯楽が大衆化した時代でした。温泉、遊園地、プールなど娯楽施設



が集まった平和島は、戦後の娯楽の象徴であり、多くの人々の思い出の詰まった場所と言えるでしょう。(まこ)

海苔生産の再起へ

～東日本大震災の被災を乗り越えて～

3月11日、東日本大震災による津波が太平洋沿岸を襲いました。宮城県は全国約5位の海苔生産地。津波は船、海苔網、乾燥機などを呑込みました。

あれから半年。宮城は種つけの時期を迎えました。新聞記事によると、宮城県石巻湾支所では、9月5日から陸上採苗が始まったそうです。今年は共同体で生産にあたり、規模は昨年の約3分の1とのこと。順調にいけば10月中旬ごろ収穫が始まります。

また、「献上ノリ」で知られる東松島市矢本では、投資の少ないワカメを養殖し、その収入を元に来年度以降海苔養殖の復活を目指すそうです。また、塩釜市では「うらと海の子一口オーナー制度」を立ちあげ、自らの力による復興を目指しています。

宮城の海苔養殖は、江戸時代に大森が技術を伝えたことに始まります。

そして現在、当館の海苔つけ体験でも宮城県産を使用しています。

今後も被災地の海苔生産の復興を応援したいと思います。(まこ)



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」23号

平成23年10月1日発行
編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会
連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号
TEL 03-5471-0333
FAX 03-5471-0347